

# A Way of Life

## —Seko Koichi—

22号  
平成28年10月

世耕弘一先生建学史料室広報

### 「世耕弘一先生ご愛用の品」

#### ご遺族から寄贈され祥月命日に展示

世耕弘一先生の遺品十二点が、ご遺族の森元つる子氏、世耕弘武氏から建学史料室前室長の當仲將宏氏を通じて、平成二十八年四月、近畿大学に寄贈されました。弘一先生が昭和五年からお住まいであった東京池袋のご自宅（戦後、建て直しを経て現在の建物へ）に保管されていたものの一部です。

ご寄贈いただいた遺品は、次のとおりです。

#### ① 中折れソフト帽子

アンゴラと思われる柔らかかなグレーの生地に茶褐色（経年退色か）のリボンがあしらわれています。サテンの裏地、皮革のビン皮、ビン蝶からも質の良さがうかがわれます。国会登院、大学出勤時、その他国内



施設の出張時も常に着用されていた。多くの方にとって馴染み深い帽子です。

#### ② 黒革のカバン

縦二十三センチ、横三十センチ、マチ付きで、国会登院時に使用されていました。鍵のついた真鍮色の錠



前は、ワンタッチ式で、かぶせを開くと、開口部のファスナーに持ち手のストラップがついています。

#### ③ 柳行李の弁当箱

国会登院時に使用されたものです。縦十五センチ、横十センチ、高さ四・五センチで、使い込まれて光沢を帯び、褐色がかった色合いや滑りの良い柳の質感、整然とした細かい網目から、柳行李の上質さと、弘一先生の愛着が感じとれます。



#### ④ 陶器の湯呑み

椿の鮮やかな朱色と葉の緑が印象

#### ▼ 不倒館移転・拡充のお知らせ 18号館1階へ ▲

不倒館1創設者世耕弘一記念室はこのたび、東大阪キャンパス中央図書館3階から、18号館1階（西門から南側）に移転・拡充しました。平成二十八年九月二十一日から、再び開館しています。開館日の詳細は、不倒館ホームページをご覧ください。これにより、変更した点は次のとおりです。

- ・ 展示スペースの拡充
- ・ 新たな書架と企画展示コーナーの増設

不倒館移転後最初の企画として、「世耕弘一先生ご愛用の品」を特別展示しています。移転後の不倒館にも、ぜひお立ち寄りください。

的なベージュ色の湯呑みは、直径六センチ、高さ八・五センチとやや小ぶりです。東京池袋のご自宅で愛用されていたものです。



#### ⑤ 硯箱一式

黒い硯箱は、蓋に螺鈿があしらわれ、中には、硯と水滴、細筆が四本、三分の一ほどすり減った墨が収められています。「とにかく書くものは筆でもなんでも始終そばに置いておられた」(『回想 世耕弘一』三二五頁から)という弘一先生のお姿が偲ばれます。



- ⑥ 色紙「龍吟雲外松」
- ⑦ 扇子「飛龍在天」
- ⑧ 手帳二冊(昭和二十二年・二十三年)
- ⑨ 携帯用銀製ポトル
- ⑩ 眼鏡
- ⑪ 気圧計
- ⑫ グルーミングセット(爪切り、はさみ等五点)

この中から、①から⑤の計五点を同年四月二十七日の世耕弘一先生祥月命日に、18号館六階の祭壇横に展示しました。

祥月命日の焼香に訪れた方々は、遺品を拝見し、弘一先生を偲んでいました。

#### 不倒館で特別展示

ご寄贈いただいた遺品は、不倒館一世耕弘一記念室で、特別企画「世耕弘一先生ご愛用の品」として展示中です。ぜひご覧ください。

### アーカイヴズ研究活動報告

#### 現況調査報告

第五回・第六回総務部現況調査  
(平成二十八年二月二十四日・二十六日)

建学史料室研究員富岡勝、藪下信幸、上崎哉及び同室職員澤田和典、西尾さかえの五人で、本館六階の倉庫で総務部が保管している校史関係

史資料の第五回・第六回現況調査を行った。今回も前回調査の継続作業として、本館倉庫内のシエルフに収蔵されている史資料の予備調査を行った。今回の調査では、昭和十二(一九二七)年の日本工学校設立認可通知などの戦前の史資料や、昭和三十年代から平成七年頃にかけての附属高校等の設置申請関係公文書の仮リストを作成した。今後も本館倉庫所蔵史資料の調査を継続し、本学校法人の発展過程を明らかにしていきたい。

(法学部教授

建学史料室研究員 上崎 哉)

#### 第三回中央図書館現況調査

(平成二十八年一月十二日)

調査目的

(1) 中央図書館所蔵の法学関係、経済学関係の和書で校史関係史資料と見做すことが出来るものを見出すこと。

(2) 近畿大学に在職した著名な研究者(法学、経済学分野等に於ける)から寄贈された著書等を見出すこと。

調査結果

(1) 次のような重要な校史関係史資料と見做すことが出来る和書を見出した。  
大阪専門学校印のある和書三冊  
大阪専門学校校友会のスタンプのある和書一冊  
大阪専門学校校友会のスタンプのある和書二冊

大阪理工科大学の印のある和書二冊  
大阪理工科大学のスタンプのある和書一冊

荒木光太郎(東京帝国大学経済学部元教授)の旧蔵和書十一冊、同旧蔵と判断される和書五冊

(2) 次のような研究者の著書が寄贈されているのを見出した。

田中直吉(昭和八年の瀧川事件当時京都帝国大学法学部の助手であったが、関西大学法学部を経て昭和二十八年から昭和三十年まで本学

法学部教授を務めた)から事実上寄贈されたと判断される著書一冊

土方成美(昭和十四年の平賀爾学で東京帝国大学経済学部を退いているが、昭和二十六年以降本学商学部兼任教授等を務めた)からの寄贈著書一冊

瀧川政次郎(昭和三十年から昭和三十七年まで本学法学部兼任教授を務めた)からの寄贈著書二冊

(近畿大学名誉教授

建学史料室研究員 荒木 康彦)

#### 第四回中央図書館現況調査

(平成二十八年三月七日)

調査目的

従来、本学中央図書館所蔵の荒木光太郎(東京帝国大学経済学部元教授)旧蔵図書は洋書のみであり(本学中央図書館が作成した「荒木光太郎氏寄贈」図書のリスト「中央図書館所蔵データから寄贈者荒木光太郎で抽出、平成二十六年五月三十日現在」によれば洋書

一、〇七三冊、全冊昭和三十六年受入)、和書はないとされてきた。だが、第三回調査の結果でも、荒木光太郎旧蔵和書十一冊、その可能性が高い和書五冊がすでに発見されたので、荒木光太郎旧蔵洋書一、〇七三冊に匹敵するような冊数の荒木光太郎旧蔵和書が存在する可能性が生じた。そこで、第四回調査は、主たる調査分野を経済学関係の和書に絞り、校史関係史料と見做すことが出来る図書、殊に荒木光太郎旧蔵和書を確認することを目的とした。

#### 調査結果

第四回調査後も、補充調査を継続実施し、荒木光太郎旧蔵和書三十一冊、その可能性が高い和書三十四冊を発見した。前回発見のものと同算すると、荒木光太郎旧蔵和書は四十二冊、その可能性が高い和書三十九冊となった。これらには「再受入図書」の印があり、「寄贈」として処理されている。

#### 調査成果

今回の調査結果は、以下のような、最近採取した一次史料によって補完されるという大きな成果に繋がった。摂南大学経済学部牧野邦昭准教授及び名古屋大学経済学研究科小堀聡准教授を通じて、荒木光太郎の御令孫齋藤潤氏所蔵の「契約書」(昭和二十七年二月三日付)のコピーを入手出来た。荒木家側と近畿大学側の間に結ばれており、それには、故荒木光太郎の蔵書(洋書一、三八九部、和書単行本一、五四一冊、和雜

誌三十六点、一、八七六冊、別紙添付の目録表示のもの)を庭先価格)で有償譲渡するとなっている。従って、第三回及び第四回調査で発見した荒木光太郎旧蔵和書四十二冊は、「契約書」にある売却された「和書単行本一、五四一冊」の一部なのである。中央図書館作成の「荒木光太郎氏寄贈」図書のリストにある一、〇七三冊の洋書も「契約書」にある売却された「洋書一、三八九部」の一部なのである。

国立公文書館所蔵「近畿大学 大阪 第4号の2冊」(請求番号 昭60文部00730100)収録の第

六文書「近畿大学大学院設置について」(昭和二十七年四月二十三日決裁)では、「設置認可条件」として「(1)最近の専門図書及びバックナンバーを可及的すみやかに増設すること。」が付されており、しかもその第六文書には「大学院申請後の増加主要圖書目録 學校法人近畿大學」として大部の図書リストが追加収録されている。従って、荒木光太郎旧蔵図書の購入は大学院設置に向けてのものであったらうと推測されるので、この点について今後調査する必要がある。

(近畿大学名誉教授

建学史料室研究員 荒木 康彦)

#### 学外校史関係史料調査

国立公文書館所蔵「大阪専門学校 大阪 第5号の1冊」(請求番号 昭47文部00213100)所収の

第一文書「日本大學専門学校設立認可」に包含されている大正十三年七月三十一日付「専門学校設立認可願」に添付されている文書中で殊に刮目すべきは、「土地寄附者氏名住処」と十四筆の「土地臺帳謄本」である。前者には「大阪市東區上本町六丁目 大阪電気軌道株式会社」、「大阪府中河内郡弥刀村小若江 武村亀二郎」とある。後者は大正十三年七月八日付住道税務署交付で、日本大学に寄附された中河内郡弥刀村小若江の九筆、中河内郡小阪村上小阪の五筆の「土地臺帳謄本」である。

「土地臺帳」は明治十七年に作成され始めて、明治二十一年中にほぼ全国規模で完成したとされている。この時期の「土地臺帳」は、無論散逸した例もあり、現存するものも都道府県で保存の在り方が異なっているようである。右記の十四筆の「土地臺帳謄本」の元となった「土地臺帳」を博捜した結果、大阪法務局東大阪支局で発見し得た。

右記の「土地臺帳謄本」の中河内郡弥刀村小若江のものは、この時期の「土地臺帳」の中の「土地台帳 東大阪市 2011400」として、中河内郡小阪村上小阪のものは同じく「土地台帳 東大阪市 9011」として保管されているものから謄本であることが判明した。

この「土地臺帳」の当該部分に於ける表記に忠実に、右記の十四筆の所有権の推移を簡単に辿ると、次のようになろう。

これらの十四筆の土地は、いずれも大正十三年六月三日及び四日に「東京市神田區三崎町三丁目 私立日本大學」へ「所有権移転」となっており、当該十四筆のうち十二筆は旧「所有主氏名」は「武村亀二郎」となっており、他の二筆(中河内郡弥刀村小若江廣田三二一番地、中河内郡小阪村上小阪小車一〇三七番地ノ一)は旧「所有主氏名」が他の個人となっている。従って、この二筆について、「土地寄附者」が「大阪電気軌道株式会社」であるということとは、この「土地臺帳」では確認し得なかった。

前掲の「土地臺帳」の当該部分によれば、右記の十四筆中二筆(中河内郡小阪村上小阪小車一〇三七番地ノ一、東廣田一〇四四番地ノ二)を除く十二筆は、昭和十五年四月から五月にかけて「日本大學」から「財団法人大阪専門學院」に「贈與」されており、それは「日本大学大阪専門學院」の「設立者」が「昭和十五年一月一日より財団法人大阪専門學院二変更ノ件昭和十四年十二月二十七日認可」されたことに照応するものである。また、「日本大學」所有のままであった右記二筆は、昭和二十六年二月に「財団法人近畿大學」に「寄附」されている。「贈與」された右記十二筆中の河内郡小阪村上小阪の三筆は、昭和二十五年二月に「名称変更」で「財団法人近畿大學」に受け継がれ、そして「昭和二十六年三月二日組織変更」「学校法人近

畿大学」という表記になっており、それは文部省による昭和二十六年二月二十四日の「財団法人近畿大学学校法人近畿大学への組織変更の認可」に照応すると判断される。そして、右記十二筆の中河内郡弥刀村小若江の九筆は、昭和三十一年九月十九日に「三百二十一番に合筆」学校法人近畿大学」と表記されている。(近畿大学名誉教授 建学史料室研究員 荒木 康彦)

近畿大学を巡る史資料 6  
— 法学部設置に関する 史資料から —

法学部教授 建学史料室研究員 上崎 哉

近畿大学総務部総務課には、大学や附属校の設置認可に関する申請書の写しが大量に保管されている。今回は、近畿大学に法学部を増設する際に文部省(当時)に提出した『法学部増設認可申請書』(以下「申請書」とする。)を基に、法学部設置の経緯とその当時のカリキュラムを紹介したい。

新制大学としての近畿大学は、昭和二十四年、理工学部と商学部の二学部でスタートした。なぜこの二学部となったかと言えば、申請書によれば、「新制大学への転換に際しては法経学部設置を念願して居りましたが御審査の結果商学部として御認

可を得」ることとなったからだと言っている。

しかし、「大阪専門学校としては大正十四年開校当初から法律科を設置して古い歴史を持つて居り……学生卒業生共に新制大学に法學部の増設を熱望して居ることから、法経学部を法学部へと改めた上で同年八月三十一日に申請書が提出され、翌昭和二十五年、法律学科一学科からなる法学部が増設されることとなった。

申請書の内容のうち最も興味深いのは卒業要件と科目表である。まず、卒業要件については、

法学部(法律学科)の学科課程を終了したものと認められるべき者は専門科目中法理学四、憲法四、行政法四、刑法四、訴訟法四、国際法四、民法八、商法四、研究演習四、及び外国法四計四四単位を含み、合計八〇単位以上を選択履修しなければならぬ (原文ママ)

と記載されている。現行の法学部と比べると、必修科目が相当に多いカリキュラムだったと言える。

また、専門科目一覧は別表の通りである。憲法など現在でも開講されている科目がある一方で、国法学、新聞学など、現在のカリキュラムにはないものも少なくない。また、銀行金融論、会計学、簿記学、商業数学など、法経学部としての設置を

指した痕跡が残されているようで興味深い。

この後、昭和四十一年に経営法学科が設置され、平成十六年には政策法学科へと改組された。このように、五十年ほど二学科制の時代が続いてきたが、平成二十八年に再び法律学科一学科に戻ることとなった。この間、必修科目が多かった設置当初のカリキュラムがどのように変遷したのか、大変興味深いところである。今後も調査を継続していきたい。

科目	単位
法理学	四
憲法	四
行政法第一部(総論)	四
行政法第二部(各論)	四
刑法第一部(総論)	四
刑法第二部(各論)	四
国際公法第一部(平時法)	四
国際公法第二部(戦時法)	四
刑事訴訟法	四
民事訴訟法第一部(判決手続)	四
民事訴訟法第二部(強制執行)	四
民法第一部(総則)	四
民法第二部(物権)	四
民法第三部(債権)	四
民法第四部(親族、相続)	四
商法第一部(総則、商行為、手形、小切手)	四
商法第二部(会社)	四
商法第三部(保険、海商)	四
研究演習	四
外国法(英・独・佛ノ内)	四

法学部編成専門科目中必須科目 (但し、専門科目第一類とする)

科目	単位
渉外法	四
労働法	四
産業法	二
信託法	二
破産法	四
日本法制史	四
比較法制史(西洋法制史)	四
刑事学	二
法医学	二
法律思想史	四
社会思想史	二
政治学	四
国法学	四
政治史	四
政治学史	四
行政学	四
国際政治学	四
外交史	四
外国政治書英、独、佛ノ内)	四
地方自治	四
社会学	四
新聞学	二
社会政策	二
経済原論	二
財政学	二
経済政策	二
経済史	二
銀行金融論	二
会計学	二
簿記学	二
商業数学	二

法学部編成専門科目中選擇科目 (但し、専門科目第二類とする)



## 各地のアーカイヴズ紹介 6 九州大学百年史編集室での 聞き取り調査報告

九州短期大学教授

建学史料室研究員 三木 一司

本研究プロジェクトで実施している各地のアーカイヴズ訪問調査として、今回は平成二十八(二〇一六)年三月二日に九州大学百年史編集室において聞き取り調査を行った。調査には九州大学百年史編集室の専任教員である藤岡健太郎准教授と井上美香子助教にご協力いただいた。本調査を担当したのは本学建学史料室研究員の富岡勝と酒匂康裕、同室職員の木村道子、報告者の四人である。調査内容は書庫見学、百年史編集室の組織形態と百年史編集の進め方、史資料収集と保管などを中心に、そのほかの事項については聞き取りの中で随時質問するという方法で行った。

今回訪問した九州大学百年史編集室は平成二十一(二〇〇九)年四月に九州大学文書館内に設置され、専任教員を配し百年史の編集を開始している。九州大学文書館は九州大学史料室(平成四年設置)を源として平成十七(二〇〇五)年四月に設置された。九州大学文書館は、九州大学に関する史資料の収集・保存、調査・研究、九州大学の歴史に関する授業などを行うことを

主な業務としている。また、同館は平成二十三(二〇一一)年には「公文書等の管理に関する法律」に基づき、「国立公文書館等」に類する機能を有する施設としての指定も受けて「特定歴史公文書等」の管理も行っている。

九州大学では二十五年ごとに記念誌を刊行しているが、『九州大学百年史』の編集体制については次のようになっている。まず、平成十八(二〇〇六)年にワーキング・グループを発足し、九州大学百年史編集委員会が立ち上がる。その後、平成二十一年四月一日から九州大学百年史編集室による作業が本格化する。この際、総長の意向により原則的に編集作業及び百年史公開をWEB上で行う方針が確認されている。公開方法に関する学内議論でもWEB上での公開が推されたそうである。編



九州大学百年史編集室のある旧工学部本館

集室の室員は、室長一人、副室長二人(一人は九州大学文書館館長、一人は百年史編集委員会委員長)、専任教員四人、テクニカルスタッフ二人、事務補佐員二人という構成である。以上のスタッフで通史編、部局史編、資料編の編集及び公開作業を行っている。そして、各学部では部局史の編集組織を設置し、編集に対応するよう基本的な体制を作っている。

『九州大学百年史』は通史編三巻、部局史編四巻、資料編四巻と写真集の計十二巻で構成され、第四巻部局史編I、第五巻部局史編II、第八巻資料編I、第九巻資料編IIが九州大学附属図書館ホームページ上で公開されている。写真集は平成二十四(二〇一二)年の百周年記念式典において配布するため、九州大学設立百年となる平成二十三年五月に印刷物で発刊された。百年史編集に関わる基礎的な作業として、平成二十一年度から文書館所蔵資料の整理・目録の作成、教授会等議事録の撮影・議題目録作成、学内刊行物目録作成、新聞記事目録作成などが継続的に行われている。そして、同年度にはWEB編集システムの構築が行われ、翌年度からは学外所在資料収集も作業に加えられている。編集上の主要な史資料については、大学史料室時代から引き継がれてきた史資料群の果たす役割が大きく、百年史に関しては文書館所蔵の史資料でほぼ対応することができたそうである。

また、各部局については主要な資料データがあるかを確認しながら収集作業を進めているそうである。

WEB上での史資料の編集・管理・閲覧には市販のグループウェアが導入され、執筆に必要な情報を共有・一元化している。導入にあたっては年間使用料金などの初期費用が必要となるが、結果的には自前で構築する場合と費用はあまり変わらないとのことであった。また、各部局史の原稿は電子メールによって執筆者と編集室との間で授受を行っている。提出原稿は編集室担当者が校正を行い、原稿提出から公開までおよそ六カ月という期間で修正作業を進め、公開時にPDF化しホームページにて公開する流れとなっている。電子ファイルによる編集・公開は、レイアウトの自由度が高くなる、字数制限がなくなる、索引を作成する必要がないなどの利点が数多くあり、十分に活用できるとのことであった。特に、資料編は七十五年史の資料をほぼすべて掲載した結果、当初の計画よりも一冊増えた四冊となったが、電子版公開のため制約なく刊行できたとのことであった。今後は、引用資料や本文にリンクを張り、閲覧の利便性を向上させる計画も考えられているそうである。

編集作業の聞き取りを通して、編集室の専任教員が通史編を執筆し、部局史編や資料編の校正作業を行うのは時として個々人の力の範囲を超

える作業量となったこと、各部署からの史料や原稿の提出の進み具合によって全体の作業計画に影響したことなどを伺うこともできた。そして、刊行事業の期間が八年と定められている時間的制約や百年史の公開方法などから、印刷物の作成については今後の検討課題であることも話していた。以上のことから、決められた予算と時間という流れの中で作業となるため、全体の作業量をしっかりと見極めた上で事業期間は長めに設定した方がよいとの助言をいただいた。今後の課題として、事業終了後のWEB公開の引継や史料管理などの問題が残されているとのことであった。今回の聞き取り調査で何うことのできた史料の整理や編集作業の方法などの内容は、本学のアーカイブズの活動に参考になると思われる。



聞き取り調査の様子

## 各地のアーカイブズ紹介 7

### ー福岡共同公文書館ー

国際学部准教授

建学史料室研究員 酒勾 康裕

これまで各地のアーカイブズ調査訪問は主に大学に設置された機関を中心に行われてきたが、平成二十八年三月四日に行った福岡大学での訪問調査の前に福岡共同公文書館を訪問することができた。訪問者は建学史料室研究員の富岡勝、三木一司、同室職員木村道子と報告者の四人であった。

福岡共同公文書館（平成二十四年十一月開館）は、福岡県と県内全市町村（政令市である北九州市、福岡市を除く）が共同で設置・運営する公文書館であり、県と市町村の共同による公文書館は全国初の事例であるという。



福岡共同公文書館（正面）

公文書館では行政文書を中心とした史料が収集、整理、保存されているが、福岡県に所在する本学産業界工学部、九州短期大学、九州短期大学附属幼稚園、附属福岡高等学校に関連する公文書が保存されている可能性があるため、本学のアーカイブズ調査研究の一環として訪問し、史料調査を行った。

まず、福岡共同公文書館の検索システムにて「近畿大学」をキーワードに検索したが、ここでは保母養成学校の指定申請書類である「保母養成所指定台帳」が四件、保母養成所業務報告綴である「保母養成所現況報告」が二件、合計六件が検索結果として挙げられた。本資料は公開状態が要審査となっていたため、今回の調査では閲覧することができなかったが、今後の調査に繋がられる資料の所在を確認することができた。また、「厚生文教委員会会事蹟」、飯塚市の「教育委員会会議録綴」、「飯塚市議会会議録」等も関連史料として今後の調査対象になる可能性があると思われる。館内には開架史料があるとされた。館内には開架史料も多数あり、「福岡県の私立学校」（平成七年）には本学附属女子高等学校の設置年月日等の記載がされていることが確認された。

各地に所在する本学の教育機関や各種研究施設に関連する史料を調査するにあたり、今回の福岡共同公文書館での調査は、今後のアーカイブズ調査研究に繋げていける可能性が提示された調査であったといえよう。

## 各地のアーカイブズ紹介 8

### ー福岡大学史料室ー

教職教育部教授

建学史料室研究員 富岡 勝

平成二十八年三月三日、前日の九州大学に続き、福岡大学の大学史料室を訪問して聞き取り調査を実施し、専任室員の藤本俊史氏に七十五年史編纂や大学史料室の活動について詳しくお聞きすることができた。調査は、建学史料室研究員の三木一司、酒勾康裕、同室職員木村道子と報告者の四人が担当した。以下、藤本氏にお話しいただいた内容の主要な部分を紹介する。



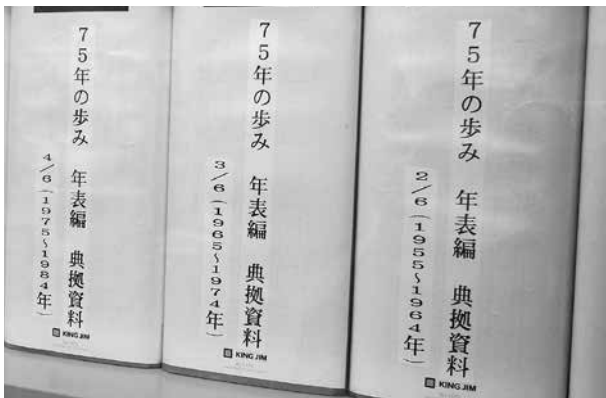
調査の様子

『福岡大学75年の歩み』編纂事業  
福岡大学の歴史は昭和九年（一九三四）創立の福岡高等商業学校から



アルバムに整理された写真の一部

始まり、平成二十一（二〇〇九）年に創立七十五周年を迎えた。福岡大学では七十五周年記念事業の一環として、平成十八（二〇〇五）年四月に七十五年史編纂委員会を発足させ、同委員会の編集による『福岡大学七十五年の歩み 写真・年表編』（平成二十一年十月発行）、『福岡大学七十五年の歩み 資料編』（平成二十五年三月発行）、『福岡大学七十五年の歩み 事典編』（平成二十六年二月発行）を刊行してきた。



年表の典拠資料

**写真・年表編**  
この写真年表編は、巻末に「写真出典一覧」と「年表事項典拠一覧」が付けられ、詳細な出典が記されていることが特徴である。掲載資料一点ごとに出典を明記することでこれまで大学史資料室で収集してきた膨大な写真や史料を将来にわたって活用できることを目指したという。

**資料編**  
資料編では、国立公文書館所蔵の福岡大学設置関係の一次史料を中心に解題を付けて収録した。また土地及び建物の面積、志願者・合格者数、在籍者数、卒業生数、教員・職員数などのデータも収めている。

これらの史料は将来の本格的な通史編纂に欠かせないものとなる。

### 事典編

学生も手にとりやすい本として、ソフトカバー製本の事典編を作成した。人物編、施設編、及び一般事項から構成されている。一般事項では、学内組織などの歴史を紹介するとともに、各クラブ活動の歩みも紹介している。

こうした学内の多様な事項を紹介することを旨とし、福岡大学では七十五年史編纂で初めて『事典』形式を採用した。全国の大学では、『関西学院事典』（平成十三年初版、平成二十六年増補改定版）、『慶応義塾史事典』（平成二十年）などが刊行されている。

事典編の各事項にも詳細な出典が記載されている。また資料編や写真・年表編でも紹介された事項には、それらの頁数や写真番号も付されている。

### 大学史資料室の構成と活動

大学史資料室は現在、専任室員一人（藤本氏）、アルバイト室員二人で構成されている。なお、『福岡大学七十五年の歩み』編纂の実務をおこなった七十五年史編纂室（平成十七年一月設置）では専任室員が二人であった。

大学史資料室では、『福岡大学七十五年の歩み』編纂終了後も史資料の整理に力を入れている。大学史編纂と史資料整理の同時進行は困難なので、普段からの継続的な資料整理

が非常に重要だという。これまでに協議会議事録の撮影、教授会議事録議題目録の作成、学報のデータベイス化、福岡大学関係放送番組の整理（DVD化）などを実施している。

### 福岡大学調査を終えて

以上のような福岡大学の七十五年史編纂や大学史資料室の事例は、九年後の平成三十七（二〇二五）年に創立百周年を迎える本学にとって非常に示唆的である。

周年事業で大学史を編纂する際には、大学によって目的が異なり、それぞれの目的によって形態やボリュームも多様である。例えば、本格的な通史、部局史（学部、附属施設、附属学校など）、資料編、略史、写真集、『事典』などの形態が挙げられる。十冊ほどの規模の刊行になることもあれば、一冊の記念誌にまとめられることもある。また、九州大学のようなWEBによる刊行形態が今後広がるかもしれない。

福岡大学のように、将来の通史編纂の準備としての資料集などに力を入れた年史編纂というのも、目的に応じた説得力ある方針の一つであると実感した。各大学の記念事業の性格、史資料の収集・整理状況、準備期間などに応じて、年史編纂の目的を学内できちんと議論した上で、どのような形態の年史編纂を行うのかを明確にしておくことは、やはり重要であろう。

詳細な出典を付けた年表、一次史



料を翻刻した資料集、多様な事項を詳細する『事典』形式なども、本学にとつて参考になると思われる。

また、「編纂と整理の同時進行は困難」という指摘に、早期から史料の収集・整理を実施することの重要性を痛感した。本研究調査プロジェクト「近畿大学の大学アーカイブズと校史関係史料の収集・整理に関する調査・研究」(第二期)は、今後大学として本格的な史料整理をスムーズに実施していくための準備として、やはり大きな役割を担っているといえるだろう。

## 産業理工学部

### 創立五十周年を迎えて

産業理工学部 学部長 荒川 剛

近畿大学産業理工学部の五十周年記念祝賀会に副総理麻生太郎氏、近畿大学校友会名誉会長・内閣官房副長官世耕弘成氏(現経済産業大臣)、福岡県知事小川洋氏をはじめ多数のご来賓にご臨席を賜り、平成二十八年六月四日、厳粛かつ盛大に挙行できましたことに對しまして、教職員一同心より厚く御礼申し上げます。

さて、産業理工学部は、飯塚市から市の再建策の一つとして熱烈な誘致活動を受け、昭和四十一年に近畿大学第二工学部として設立されました。一口に五十周年と申しますが、現在勤務しています教職員の中には



創立50周年記念式典の様子

設立当時まだ生まれていない方も多く、当時を知る方もわずかでございます。昭和六十年には、第二工学部から九州工学部に学部名称を変更し、昭和六十二年の設立当初の三学科体制から五学科体制への拡充や、平成四年の大学院の設置を経て、学部の研究・教育の充実が図られてきました。さらには、平成十六年の九州工学部から理工系の学部のなかに文系の学科を設けたいわゆる文理融合型の学部である産業理工学部への改組、平成十九年の分子工学研究所の開設といった時代の要請に合致するような変遷を経て、本学部は今日に至っております。設立当初は学生募集で大変苦労されたとお聞きしている本学部ではありますが、今日晴れて創立五十周年を迎えることができました。

ここ数年は、ネット出願などによる入試改革や、マグロの完全養殖をはじめとする近畿大学発の大きな



設立当時の産業理工学部(当時名称:第二工学部)

研究成果が取り上げられるようになって、本部キャンパス以外の学部にも志願してくれる学生が増えてきました。また、グローバル化、地方創生等の社会変化が激しくなってきたこと、また、最近の世界情勢を見ても、世の中の中心がどこなのかわからないほど予測困難な時代となってきたことを考慮いたしますと、これからの大学においては知恵と真理を求める教育、研究がますます大事になってきていると感じます。

## 創立五十周年を迎えて —九州短期大学—

九州短期大学 学長 林 幸治

このたび近畿大学九州短期大学は創立五十周年を迎えることができました。これは教職員・学生一同にとつて大きな喜びであり、誇りであります。



現在の産業理工学部

そこで、飯塚の復興を教育で果たそうとした先達の意志を受け継ぎ、「実学教育と人格の陶冶」という建学の精神に立ち返り、多様な人材ニーズに対応できる教育・研究分野へ挑戦を含めた新しい産業理工学部の創生を目指して頑張っていきたいと考えております。

今後も皆様方の末永いご支援を願ひまして挨拶にかえさせていただきます。

本学の誕生は、旧産炭地から明るいイメージの研究学園都市への脱皮を目指すため、飯塚市が大学誘致を願ひされたことが始まりです。

かねてより、女子教育の重要性を強く感じておりました世耕弘一初代総長が、飯塚市の申し入れを快く承諾してくださり、昭和四十一年四月、ここ飯塚市にはじめての「女子短期大学」が創設されました。



当初、家政科と保育科の二学科でスタートいたしました。昭和四十三年四月には附属幼稚園が開設されさらに、昭和五十三年四月には、世耕弘一初代総長の「学びたいものに学ばせたい」という教育理念に基づき、通信教育部保育科が設置されました。

創設以来、五十年、近畿大学の建学の精神である「実学教育」と「人格の陶冶」をベースとした教養と実践的な専門能力を身に付け、地域社会に貢献できる人材育成を行ってまいりました。この間、短大を取り巻く社会環境は大きく変貌し、旧来の教育体制では対応が困難となり、平成元年四月に、近畿大学九州短期大学へ校名を変更することによって男女共学が可能となりました。また、家政科の学科名を生活文化科と名称変更することによって、さらに、情



開学当初の1号館と中庭（昭和41年頃）

報化社会、高齢化社会といった地域社会における人材育成の要請の変化に対応し、平成七年四月には、生活文化科から生活情報科へ、平成十三年四月の生活福祉情報科への名称変更をするなど時代のニーズに応じた改革を行いながら今日に至っております。

一方、保育科では、この五十年間、幼児教育及び保育学の基本を踏襲しつつも、子供を取り巻く環境の変化から生じる幼児教育の様々な課題に対応した指導を行い、筑豊地区を中心に多数の幼稚園教諭・保育士を送り出してまいりました。

このように通学課程の卒業生の多くは、出身地である筑豊地区で幅広く活躍しており、地域に根ざした短期大学として、社会に貢献する人材を育成する役割を果たしてまいりました。

さらに、通信教育部では、学びたい人たちのニーズに応じて短期大学の門戸を開放し、多様な学生を幅広

く受け入れてきました。地理的・時間的制約の問題をかかえながらも、本学の通信教育を受講することで、各自の困難を乗り越えて資格取得の夢を実現させてまいりました。今では、北は北海道から、南は沖縄まで、数多くの方が、この近畿大学の精神を受け継ぎ、各分野で活躍しております。

話は変わりますが、短大の近くには「筑豊富士」と呼ばれる形のいい三連の山があります。五十年間、我が短大を見守ってきました。この山は通称「ボタ山」と呼ばれ、日本がエネルギーを石炭に頼っていた時代の石炭カスでできた山です。ボタとは選炭した後の質の悪い石炭や石のことで、つまり「ボタ山」とは集積所にトロッコで運ばれたボタが積もり積もった産業廃棄物の山のことでした。

炭坑の閉山が相次いだ短大設立当初は、この「ボタ山」は草木一本も生えない真っ黒い山でした。しかし五十年経った今では、素晴らしい自然林を抱える緑豊かな森へと姿を変えていきました。

私には、この「ボタ山」の自然が、旧産炭地域振興政策によって飯塚市に誘致された近畿大学と筑豊の関係を表すシンボルのように思えてなりません。

この五十年の間に本学を巣立って行かれた卒業生は、生活福祉情報科（旧家政科、旧生活文化科、旧生活情報科を含む）二六九二人、保育



現在の1号館と中庭

科四六九〇人、計七三八二人並びに通信教育部三一四三六人に及びます。このことはいつも温かく見守ってくださる本学関係者の皆様はもちろん、同窓会・保護者・地域の皆様のご理解とご支援の賜であり、深く感謝申し上げます。

今後、近畿大学九州短期大学は母体である近畿大学の建学の精神を堅持しながら、地域の皆様に「愛され、信頼され、尊敬される」短期大学として、さらに、地域に根ざし、地域と共に発展していく所存でございます。

きつと今後五十年、百年後と、自然豊かな「ボタ山」が筑豊と近畿大学の輝ける未来を見守り続けてくれることでしょう。

同窓生の皆様方、関係者の皆様今後ともご支援・ご協力並びにご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

## 世耕弘一先生の留学費用についての実証的考察

近畿大学名誉教授 建学史料室研究員 荒木 康彦

1

世耕弘一先生の足掛け五年（大正十二年九月から昭和二年二月まで）に及ぶドイツ留学に関する一次史料は、従来殆ど発見されていなかったが、最近相次いでその採取に成功している。とは言条、世耕弘一先生御自身による「ドイツ留学の思い出」と題する論述は、先生のドイツ留学について学術的考察を進める上で、起点的重要性を持つことは言うを俟たない。

斯かる意味から、この「ドイツ留学の思い出」を改めて繕くと、ドイツ留学の費用について、次のように言及されているのは、洵に刮目に値する<sup>1</sup>。

（前略）私がドイツに着いてから、東京が震災でやられたたくわしいことを知った。日本大学も壊滅して復興に全力をつくすことになったので、日本大学からの留学費は一年分ぐらいしか頂けなかった。次の一年間は自分の金でやりくりし、その後は紀州の徳川家から借りた金で一年半、更に同じ紀州の先輩で政治家の岡崎邦輔さんから借りた金で一年半と、ちょうど五年間ドイツで

勉強して、日本へ帰ったのは昭和二年二月、行くときは船であったが、帰りはシベリヤ鉄道でロシヤを通って帰って来た。（後略）

ここで殊に重要なのは、留学費用の出所が簡明に記されていることであり、それを整理してみると、次の如くなる。

- （1）関東大震災による壊滅的打撃からの復興に全力を傾注する日本大学からの留学費支給は、「一年分ぐらい」だけになった。
- （2）「次の一年間は自分の金でやりくり」された。
- （3）その後、一年半分は「紀州の徳川家から借りた金」であった。
- （4）更に、一年半分は「紀州の先輩で政治家の岡崎邦輔」（一八五三―一九三六）から「借りた金」であった。

2

（1）・（2）・（3）・（4）の各点を、最近採取に成功した一次史料に依拠して、近代歴史学の理論の精髓とも言うべき「史料批判」(Quellenkritik)を援用して、以下順次検討することにした。

先ず（1）に関してであるが、「山

岡萬之助関係文書」（学習院大学法経図書センター所蔵）に「履歴書世耕弘一」<sup>2</sup>という表題で収録されている史料（「山岡萬之助関係文書」での整理番号H1716）を挙げる<sup>3</sup>ことが出来る。この史料には「日本大學生用箋」が用いられており、末尾には「大正十五年一月十九日」の日付が有り、日本大学の公印が押されている。そして、この史料自体には表題はなく、「世耕弘一」という名前が続く七項目で、即ち「原籍」・「学習セル學校」・「日本大學ヨリノ給費額」・「大阪朝日遣外社員トシテノ給費額」・「選抜成績」・「學校成績」・「留學ヲ命ジラレタル専攻學科」のドイツ留学関係についての七項目で纏められている。従って、また、この史料は「履歴書」ではなくて「留學生調」とも言うべきものである。

この史料の「日本大學ヨリノ給費額」という項目では、「貳千七百圓 歸國旅費給與ノ見込」となっており、この「貳千七百圓」、或いはその一部が、日本大学から支給された留学費「一年分ぐらい」になると想われる。大正十一年に定められた明治大学「留學生規程」によれば、欧州留学の場合の年額は三、三〇〇円が上限とされている<sup>3</sup>。また、日本大学からの支給額の「貳千七百圓」が渡航費を含んでいたか否かは不明である。

そして、この史料に出てくる「大阪朝日遣外社員トシテノ給費額」という項目では「本人ト直接関係ニシ

テ學校ニ於テハ詳ナラズ」となっているが、朝日新聞社史編纂センター（大阪）で発見した史料「朝日新聞本社 自大正十一年至大正十五年社員異動簿（大阪 東京）」<sup>4</sup>所収の「世耕弘一」の欄では、大正十二年七月十一日付にて「辞令」は「在歐中通信ヲ囑託ス」、「給料」は「報酬無し」となっている。

3

次に（2）についてであるが、この点に関する一次史料は未だ見出し得ていないが、次のような、世耕弘一先生の山岡萬之助先生宛の二通の書簡（学習院大学法経図書センター所蔵「山岡萬之助関係文書」収録）から、それは少しく窺い得る。

- （i）一九二四年十月十日付書簡（「山岡萬之助関係文書」での整理番号H174）
- （ii）一九二四年十月十一日付書簡（「山岡萬之助関係文書」での整理番号H175）

（i）と（ii）とは極めて特殊な関係性があることを、先ず指摘しておかねばならない。一日違いのこの両者は、（ii）に有る追伸部分を除けば、ほぼ同じ内容・文章の書簡であること、（i）がロシヤ経由の「飛行郵便」によるもので、（ii）はアメリカ経由の「汽車便」であることである。（ii）の追伸部分とは、次の通りである<sup>5</sup>。（●は墨で塗潰して削除された部分である）。

昨日夕モスコ一迄の飛行郵便にて本書同様の文意にて懇願仕り置候然し私は初めての事故に完全に●本に著くや不安に候儘重ねて瀛車便にて此の手紙出状仕候満足に行くとせば飛行便は七日位は早かるべしと存候

(ii)と同様の文意で「懇願」した(i)を「飛行郵便」で発信したが、初めてのことなので本当に着くかどうか覚束ないので、「瀛車便」にて(ii)を重ねて「出状」したと判断されるのである。そして、その「懇願」とは是非急ぎ送金して貰いたいということであり、その理由として、次のように述べられている。

(前略)

実は昨年の地震之影響にて確定的の学費出所を失ひ色々苦心方法相立て今日迄切りぬけ申候  
深川材木店の方へも其後交渉の結果本月初めに送金する様決定其の豫定に有之候處突然本日電報にて本年内送金不可能の旨打電に接し申候実は豫定にして居つたのか変した事として実は非常に困却仕候就ては来年春になれば親家より送金の手筈に有之候  
(後略)

ドイツ留学を継続して研究を深めたいとの熱意から「やりくり」された一端が、ここでは具体的に陳述されているのである。尚、ここに出てくる「深川材木店」とは深川の材木店と言う意味であろうと解されるから、それは、世耕弘一先生が曾て勤務しておられた「大湊木材株式会社」(所在地は東京市深川区豊住二六九で、電話番号は本所三三三三三)のことでないかと推察される<sup>7)</sup>。

4

更に、(3)と(4)であるが、両者は密接に絡み合っている。複雑な論証が必要であるから、以下関係史料を挙げつつ、両者を併せて聊か踏み込んで考察してみたい。  
先ず(4)に出てくる岡崎邦輔について触れておかねばならない。周知の如く、岡崎邦輔は陸奥宗光(一八四四―一八九七)の従弟であり、陸奥が明治二十四年に衆議院議員(和歌山県選出)を辞した時に、岡崎は衆議院議員補欠選挙に立候補して当選し、衆議院議員となり、後には立憲政友会の長老議員ともいべき存在になっている<sup>8)</sup>。こうした

ことから、同じく立憲政友会所属の衆議院議員となられた世耕弘一先生は岡崎邦輔との縁は浅からぬものがあったと想われ、岡崎邦輔が昭和十一年七月二十二日に長逝した時に、岡崎家の諸氏と共に世耕弘一先生が枕頭に居られた<sup>9)</sup>ことから、それが推測される。

岡崎邦輔が近代の政治史上に於いて持つ重要性に比して、岡崎についての実証的な学術的研究は然程多くなく<sup>10)</sup>、また岡崎に関する一次史料の発掘も意外と多くない。こうした理由から、世耕弘一先生と岡崎邦輔の前述のような接点も、従来は精密には明らかに出来なかつた。学習院大学法経図書センター所蔵の「山岡萬之助関係文書」に山岡萬之助先生宛の多数の書簡が収録されていることに想いを輪して、調べ直したところ、岡崎邦輔からの次のような五通の書簡を見出すことが出来た。

- ① 大正十四年六月一日付書簡(「山岡萬之助関係文書」での整理番号はHT3)
- ② 大正十四年八月十五日付書簡(「山岡萬之助関係文書」での整理番号はHT4)
- ③ 大正十五年一月十二日付書簡(「山岡萬之助関係文書」での整理番号はHT5)
- ④ 五月二十七日(年不明)付書簡(「山岡萬之助関係文書」での整理番号はHT6)
- ⑤ 十一月十五日(年不明)付書簡(「山岡萬之助関係文書」での整理番号

はHT7)

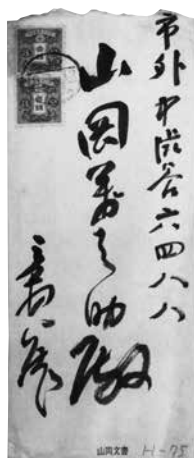
しかも、この中の③の書簡に、世耕弘一先生のドイツ留学の費用について触れられていたことを見出せた。これらの五通は、それぞれ異なる用件で書かれたもので、関連性はないようなので、ここでは③の書簡のみを組上に載せることにする。但し、次のようなことだけは触れておく必要はあると想われる。文体が他人行儀ではなく、文字の崩し方がややラフである書簡が五通もそれぞれ異なつた用件で書かれていることは、この両者が親密な関係であつたことを推測させる。また、一般的にこの時代の書簡のくずし字は個性的で、解読するのが非常に難しいのであるが、両者の親しい関係性の故か、尚一層難解なものとなっている。

③の書簡の封筒は縦約二十・一―二十・六センチ(上部が千切られて開封されており、本来はもう少し大であつたらう)、横約八・四センチであり、便箋は縦約一八センチ横約百二十センチである。封筒の表の左肩には「壹銭」切手二枚が貼付されており、消印には「15-12」と有り、封筒の裏の中央部に「一月十二日」と明記されているから、この書簡が記されたのも、投函されたのも、大正十五年一月十二日であることが分かる。封筒の裏の左下には小判型の発信者の印が押されているものの、圧不足で一部不鮮明となっている。そこで、①・②に押されている同一の印を参考してみると、「東京芝區



高輪 北町四十八番地 岡崎邦輔  
 であることが分った。また、③の書簡の便箋の料紙には特色があり、生成色・水色・薄紅色・鼠色（経年褪色しているであろうから、本来の色合いは当然違っていたと判断される）の染紙からなる風雅な継紙が使われている。③の書簡の写真及び解読文は、次の通りである（この書簡の便箋の横幅は長大であるので、適宜二分割して、掲載している）。

〔封筒〕



市外中渋谷六四八八

山岡萬之助殿

親展



一月十二日

東京芝区高輪  
 北町四十八番地  
 岡崎邦輔

〔便箋〕

拜啓益御清光  
 奉大賀候陳者世  
 耕氏より手翰  
 拝見仕候則返  
 上可致候承可被下候  
 世耕之兄弟来訪  
 留学費用不  
 足尚帰国旅費  
 等も合計一五六  
 必要  
 百圓不足候故何とか  
 工夫致呉と申來候  
 留学中之借金  
 及旅費も必要  
 と存し何とも此上之  
 支出も少々閉口候故



徳川南葵育英

會へ申込置候同會ハ

海外学生ニ貸費

せる前例も無之

候得とも今回ハ特

別之處分致貴候様

頼置候然らハ同會

より尊臺又ハ学

校へ何らか承り合候

義も可有之其節ハ

世耕之為可然

挨拶願度候

恐々頓首

一月十二日

山岡老臺



③の書簡の要点を箇条書きにする  
と、大略次の如くなる。

(ア) ドイツ留学中の世耕弘一先生  
からの書簡を岡崎邦輔が「拝  
見」したので、「返上」するつ  
もりであること。

(イ) 「世耕之兄弟」が岡崎邦輔を訪  
ない、留学費用不足分と帰国  
費用等で千五、六百元不足する  
ので、工面して呉れと申し入  
れて来たこと。

(ウ) 「留学中之借金及旅費」も必要  
とのことであるが、これ以上  
の支出は無理なので、「南葵育  
英會」に申し込んで置いたこと。

(エ) 「南葵育英會」は海外の留学生  
への貸与の前例は無いが、特  
別に取計って貰うように頼ん  
で置いたこと。

(オ) 「南葵育英會」から日本大学か  
山岡萬之助先生に承諾の通知  
が来るはずなので、その時は  
然るべく同會に挨拶を願いた  
いこと。

先ず指摘すべき点は、「ドイツ留  
学の憶い出」で世耕弘一先生が簡明  
に「紀州の徳川家から借りた金」と  
表現されているのは、(ウ)・(エ)・  
(オ) から、具体的には「紀州の徳  
川家」による南葵育英會からの奨学  
金貸与のことであるという可能性が  
有るといふことである。昭和十年  
十二月発行の『南葵育英會會報 第  
五十一號』に収録されている「賛助  
員名簿」には「世耕弘一 豊島區池

袋一ノ二 日本大學々生主事 代議  
士」とされており、しかも「二期」、  
即ち「十年」で、「賛助金口数」は「五  
口」、即ち「年十圓」となっている<sup>11</sup>  
ことも、この点の傍証となるかもし  
れない。

そして、(ウ)・(エ)こそは「ド  
イツ留学の憶い出」の(3)の点に、  
同じく(ア)・(イ)こそは(4)の  
点に関連するものである。

そこで先ず(ウ)・(エ)で触れら  
れている南葵育英會、更にそこから  
窺える同會と岡崎邦輔の關係につ  
いて考察する必要がある。明治  
四十四年七月発行の『南葵育英會會  
報 第壹號』に収録されている、紀  
州徳川家第十五代当主の徳川頼倫  
(一八七二—一九二五)による「南  
葵育英會設立趣意書」によれば、従  
来の「和歌山學生會」及び「伏虎會」  
の育英事業を「一括シテ當家ノ擔當」  
となし、同會より引継いだ資金に「當  
家ヨリ四分利公債六萬圓ヲ出資シ之  
ヲ合シテ基金トシ其利子ヲ以テ奨學  
ノ資ニ充ツル」<sup>12</sup>とされており、そ  
して、明治四十四年五月十四日に南  
葵育英會が設立された<sup>13</sup>。また、「南  
葵育英會規則」(明治四十四年一月)  
の第二條には「和歌山縣下全部及三  
重縣下舊紀州領出身者子弟ノ教育ニ  
關スル保護奨励ヲ爲シ人材ノ養成ス  
ルヲ以テ本會ノ目的トス」とあり、  
第三條には「前條ノ目的ヲ達スルタ  
メ學資ヲ貸與シ其他必要ナル事業ヲ  
爲スモノトス」とある<sup>14</sup>。  
そして、注目すべきは、この『南

葵育英會會報 第壹號」所収の「會  
計報告」に有る「育英會引継後寄附  
金」の冒頭部に「一〇〇〇圓 岡崎  
邦輔」と記されていることである<sup>15</sup>。  
更に同號所収の「南葵育英會評議員  
名簿」に「東京市京橋區明石町六一  
岡崎邦輔」が認められる<sup>16</sup>ことであ  
る。従つて、岡崎邦輔は南葵育英會  
に於ける発言権が強かったと推察さ  
れる。

次に、(ア)についてであるが、  
大正十五年一月十二日より少し前  
に世耕弘一先生から山岡萬之助先生  
に届いた書簡が、岡崎邦輔に転送あ  
るいは手渡され、それを岡崎が「拝  
見」し、そして山岡先生に「返上」  
するつもりであるということである  
う。その書簡の内容はここから具体  
的には知ることは出来ないが、送金  
依頼であったと考えて大過あるまい  
と想われる。

(イ)にある「世耕之兄弟」とは、  
具体的には何方かは俄かに判じ難い  
のであるが、昭和二年十二月発行の  
『南葵育英會會報 第三十五號』所  
収の「南葵育英會賛助員名簿(昭和  
二年十二月現在)」に「世耕良一」(住  
所は「東京市外西巢鴨町堀ノ内  
八五」、職業は「深川區役所稅務  
係」)とある<sup>17</sup>ことから、御実兄の  
世耕良一先生のことであろうと推測  
される。恐らくは、山岡萬之助先生  
の助言乃至紹介で、世耕良一先生が  
岡崎邦輔を訪問され、この(イ)や  
(ウ)で纏めたようなことを熱心に  
訴えられたと、これまた推測される。

(オ)について一言すれば、南葵  
育英會から承諾の通知と判断出来る  
ものは、学習院大学法経図書セン  
ター所蔵の「山岡萬之助關係文書」  
には、今のところ見出すことが出来  
ない。それ故に、今後、日本大学所  
蔵の史料にそれを改めて搜索する必  
要があると考えている。

以上、世耕弘一先生のドイツ留学  
費用の出所について、先生の「ドイ  
ツ留学の憶い出」及び最近発見の關  
係一次史料に依拠して、実証的に考  
察してきた訳であるが、未だに解明  
出来ない点が無論有るので、今後尚  
一層關係一次史料の発見に努めて、  
より正確な歴史的な認識を深めたい  
と想っている。

注

- 1 桜門文化人クラブ編『日本大学  
七十年の人と歴史』第二卷(洋洋  
社 昭和三十六年)所収「ドイツ  
留学の憶い出」一四頁。
- 2 学習院大学法経図書センター所  
蔵「山岡萬之助關係文書」可<sup>11</sup>、  
106「履歷書 世耕弘一」。
- 3 『明治大學學報 第六十六號』  
(明治大學學報發行所 大正十一  
年)二頁。
- 4 朝日新聞社社史編修センター  
(大阪)所蔵「朝日新聞本社 自  
大正十一年至大正十五年 社員異  
動簿(大阪 東京)」収録の「世  
耕弘一」の欄。
- 5 学習院大学法経図書センター所  
蔵「山岡萬之助關係文書」H175

- 「一九二四年十月十一日付書簡」。
- 6 学習院大学法経図書センター所蔵「山岡萬之助関係文書」[三] [二九二四年十月十一日付書簡]。
- 7 回想世耕弘一編纂委員会編『回想世耕弘一』(回想世耕弘一刊行会 昭和四十六年)三二九頁、『職業別電話帳 東京之部 大正十一年版』(日本商工通信社 大正十一年)一〇二二頁。
- 8 平野嶺夫『岡崎邦輔傳』(昭和十三年 晩香會)、特に卷末収録「晩香翁年譜」を参照。
- 9 平野前掲書三六五頁。岡崎邦輔は昭和三年三月の衆議院総選挙には立候補せず、同年四月に貴族院議員に勅選されている(平野前掲書三五―三五三頁)。
- 10 伊藤隆・酒田正敏『岡崎邦輔関係文書・解説と小伝』(自由民主党和歌山県支部連合会 昭和六十年)は、数少ない労作である。
- 11 『南葵育英會會報 第五十一號』(昭和十年十二月發行)(近畿大学 建学史料室所蔵) 一八頁。
- 12 『南葵育英會會報 第壹號』(明治四十四年七月發行)(近畿大学 建学史料室所蔵) 一―二頁。
- 13 『南葵育英會會報 第壹號』(明治四十四年七月發行)(近畿大学 建学史料室所蔵) 五四頁。
- 14 『南葵育英會會報 第壹號』(明治四十四年七月發行)(近畿大学 建学史料室所蔵) 一頁。
- 15 『南葵育英會會報 第壹號』(明治四十四年七月發行)(近畿大学

- 建学史料室所蔵) 七七頁。
- 16 『南葵育英會會報 第壹號』(明治四十四年七月發行)(近畿大学 建学史料室所蔵) 八頁。
- 17 『南葵育英會會報 第三十五號』(昭和二年十二月發行)(近畿大学 建学史料室所蔵) 二八頁。

追記

岡崎昭子氏及び学習院大学法経図書センターから「山岡萬之助関係文書」[三]の史料の本稿での掲載、電子化及び公示に許可を頂いたことに深謝したい。今回の原稿を成す上で、多くの人士の御陰を蒙ったことを記して、ここに感謝したい。

近畿大学の関係者のみは「先生」としたが、それ以外の人士については敬称を省いているので、この点は諒とされたい。原典尊重の観点から引用史料の表現・漢字は、原則として、そのままにしている。

ご存じですか  
「別館」の名残

東大阪キャンパス整備 I 期工事の一環として進められている、世耕弘一先生銅像前を中心とした西門周辺の庭園改修工事は、平成二十八年三月三十一日に竣工し、西門周辺には、開放的でスタイリッシュな空間が広がっています。

その一角、西門守衛室前の 18 号館に続く階段付近に、古めかしい石板があるのをご存じでしょうか。

これは、世耕弘一先生が生前中、公務を執られていた「総長室」があった建物、「別館」の階段袖壁の一部です。

「別館」は、東大阪キャンパスの西門を入った左側にあった三階建て、近畿大学の前身、大阪専門学校当時の戦前に建てられ、昭和三十年代までは、「本館」として、大学要覧などの表紙を飾ってきました。その後、キャンパスの拡充などに伴い、「別館」と呼ばれるようになり、



世耕弘一先生銅像の傍らに設置された石板

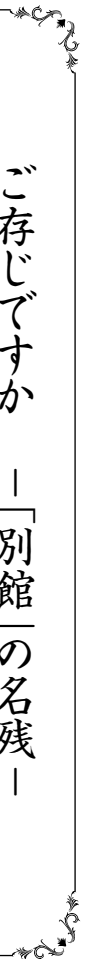
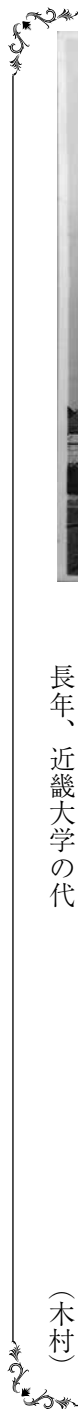
長年、近畿大学の代

表的な建物として親しまれてきましたが、平成六年度に老朽化のため取り壊されました。「別館」の名残は、袖壁上面石板三枚になりましたが、ここに、弘一先生が通われた建物の一部を大切に残したいという思いが詰まっています。一見、不つり合いにも見える石板ですが、そうした目線で眺めると、違った存在感が生まれてくるかもしれません。

(木村)



総長室があった別館





不倒館を訪れた方々

昭和三十六年から四十六年の本学卒業生で結成された同窓会の皆さんが、平成二十八年四月十六日、世話役の一人である元本学職員田中敏雄氏の計らいで、不倒館見学を企画し、大学を訪問されました。

学部も卒業年度もそれぞれである皆さんは、学生時代共に過ごした「平井下宿（東大阪市小若江）」のお仲間約五十年を経て初めての同窓会でした。

当初、北海道から九州まで、各地遠方から集まるご予定でしたが、九州地方は地震の影響で交通機関が利用できず、当日になって、やむを得



「平井下宿利用者同窓会」の皆さん

ず四人の方が出席を断念されたため、九人で開催されました。

この日は、近鉄大阪上本町駅付近で会食の後、電車で移動。長瀬駅に降り立った瞬間に、懐かしさがあふれたそうです。

不倒館でも展示品を眺めながら、在学当時に思いをはせ、現在の近畿大学の移り変わりを楽しんでおられました。

帰りは、西門前の世耕弘一先生銅像前で記念撮影。「よい記念になりました」と大変喜んでくださいました。

◆ 本学農学部バイオサイエンス学科の一回生十二人が平成二十八年五月七日、基礎ゼミによる自校学習の一環として、北山隆教授、武田徹講師、引率役の四年生三人と大学院一年生



基礎ゼミで訪れた農学部バイオサイエンス学科の皆さん

一人とともに不倒館を訪れました。この日、二時限目終了後に農学部を出発。電車とバスを乗り継ぎ、不倒館に到着しました。

不倒館では、担当職員の説明に興味深く耳を傾け、展示品を熱心に眺める姿が印象的でした。特に、農学部の研究力とその成果は、世耕弘一先生の実学精神そのものであることを、見学を通して実感されたようです。

武田講師からは、「農学部生はなかなか東大阪キャンパスに行く機会がありませんが、こうして足を運ぶことで、より理解が深まったことと思います」とお礼のコメントをいただきました。

不倒館入館者数の報告

平成二十一年九月に開設以来の不倒館入館者数を年度別で報告します。

平成二十一年度	一九五一人
平成二十二年度	二四四六人
平成二十三年度	二五七九人
平成二十四年度	二九七一人
平成二十五年度	四一七二人
平成二十六年	三四八八人
平成二十七年	三〇六〇人
平成二十八年	九三二人

総数 一二二〇六人  
(平成二十八年七月末現在)

— お問い合わせ先 —

〒 577-8502 東大阪市小若江 3 - 4 - 1  
近畿大学 建学史料室  
TEL (06) 4307-3091 (ダイヤルイン)  
URL <http://www.kindai.ac.jp>

Twitter「不倒館(近大)」

「不倒館—創設者 世耕弘一先生記念室」は、Twitterを始めました。近畿大学の創設者である世耕弘一先生の残した言葉や、不倒館の各種お知らせを配信します。皆さんのフォローをお待ちしています。

URL <https://twitter.com/futoukan>  
名前 不倒館 (近大)  
アカウント @futoukan



